

広報 おきたま病院

第25号
令和2年11月

各種
指定等

救命救急センター
第二種感染症指定医療機関
エイズ治療拠点病院

地域がん診療連携拠点病院
へき地医療拠点病院
地域医療支援病院

災害拠点病院
臨床研修指定病院



出産祝い膳と調理業務の様子

目次

p02 公立置賜総合病院・
救命救急センター
開院20周年

p06 診療科紹介「泌尿器科」

p07 診療科紹介「神経内科」

p08 管理栄養士1日に密着

病院理念

心かよう信頼と安心の病院



運営方針

- 1 患者本位の医療を展開いたします。
- 2 高度・救急医療を提供いたします。
- 3 健全経営の確保に努めます。
- 4 人材を育成いたします。
- 5 地域連携の推進に努めます。
- 6 快適な療養環境を提供いたします。



置賜地域の中核病院として 開院から20年を迎えます

ごあいさつ

置賜広域病院企業団 企業長 中山 順子

公立置賜総合病院及びサテライト医療施設の開設から20周年という大きな節目を迎えました。

この間、諸先輩方のご努力により置賜地域の中核医療機関として、医師、看護師、コメディカルスタッフ等の人材確保も進み、7：1看護体制への移行や精神科病床の再編等による医療機能の向上などに繋がっています。

サテライト病院についても、昨年6月には新南陽病院がオープンし、長井病院も建替え工事が着々と進んでおり、総合病院とサテライト医療施設がそれぞれに期待される役割を十分発揮できる体制が整いつつあります。

一方で現在、日本中、世界中が新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の困難に直面しています。

県内でも、3月末に初の感染者が判明して以来、総合病院では置賜地域唯一の感染症指定医療機関として患者さんを受け入れてきました。事前の情報収集や受入体制の整備に努めてきたことや、現場の医師看護師等スタッフの頑張りや、冷静的確に対応できたものと考えています。

総合病院玄関正面の大木、欅の木は、長寿の木として知られていますが、雨の日も、雪の日も風の日も、どっしりと構えて来院される方々をお迎えしてきました。

20年という成人式を迎える中で、私たち病院スタッフもこの欅の木のように、24時間、365日一時も休むことなく大きな懐をもって患者さんや家族の皆さんをお迎えしたいと思います。

引き続き、地域の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



開院 20周年を経過して

公立置賜総合病院 院長 林 雅弘

早いものです。県庁の15階にて当時の坪井昭三医療監と山口昂一副医療監に面会して秋から置賜総合病院に赴任させていただきますと挨拶したのが2000年の3月で20年以上が経過しました。科長クラスで赴任が決まったのが最初だと言ってお2人から大変喜んでもらえました。その後久保田功氏、加藤修一氏、薄場修氏、新澤陽英氏などその後の置賜総合病院の発展の原動力となった先生方が次々と参加をされて行きました。

もともと長井病院、南陽病院におられた先生方も合流して、2000年11月1日に基幹病院、サテライト医療施設として開院しました。その後も地域のニーズに合わせて、診療科の新設や病棟再編、看護基準の変更、サテライト医療施設の改築、収支差方式から繰り出し基準に、組合から企業団へと体制も改変し、時代のニーズにも合わせてきました。開院以来継続している置賜医療圏の最後の砦として高次医療機能の維持増強を行っています。これも地域の医療・介護施設からのご紹介を受けたりご紹介させていただいたりして、有機的に病床など医療設備を使用できているからと感謝しております。これから先もさらに医療を取り巻く環境は厳しくなっていくものと思いますが、再生可能な魅力ある病院を目指して努力して行きますので、皆様のご協力をよろしく願いいたします。

20年のあゆみ

公立置賜総合病院は、平成12年11月、長井市立総合病院、南陽市立総合病院、川西町立病院及び飯豊町中央診療所を再編・ネットワーク化し、高度・専門医療、急性期医療及び救命救急医療を提供する基幹病院として新設。今年で開院20周年を迎えました。

全国に先駆けてサテライト方式を採用し、住民により身近な地域で初期診療などを提供するサテライト医療施設（長井病院、南陽病院、川西診療所及び飯豊町国民保険診療所）との機能分担及び有機的連携のもと、地域の医療を担っています。

平成12年

11月

医師 67名 看護師 340名 総職員数 553名
公立置賜総合病院開院（17診療科）（一般496床、感染4床、精神20床）
救命救急センター指定
災害拠点病院（地域災害医療センター）指定
第二種感染症指定医療機関指定
へき地中核病院指定
老人性認知症疾患センター指定
電子カルテシステム稼働
坪井昭三医療監（兼）院長就任



平成13年

4月

インターネットホームページの開設

平成14年

5月

循環器科を標榜

平成15年

4月

医療連携室の設置

6月

SARS入院治療指定病院指定

10月

臨床研修指定病院指定

11月

SARS対策仮設隔離棟の設置

12月

登録医制度開始

平成16年

4月

山口昂一医療監（兼）院長就任

12月

へき地医療拠点病院指定（へき地中核病院制度廃止）

平成18年

9月

災害派遣医療チーム（DMAT）の結成

平成19年

1月

地域がん診療連携拠点病院指定

7月

新潟県中越沖地震の被災地へDMAT派遣

11月

ハートフィーリング
コンサート（山形大学医学部室内合奏団）
以降、継続的に開催



平成20年

4月

新澤陽英医療監（兼）院長就任
医療安全部の設置
CT装置を2台に増設

6月

岩手・宮城内陸地震の被災地へDMAT派遣

7月

岩手沿岸北部地震の被災地へDMAT派遣



平成21年

- 3月 市民公開講座「置賜の明日の医療を考える」開催以降、継続的に開催
- 4月 地区医師会の医師による救命救急センター協働診療(平日夜間)の開始
DPC(診療群分類別包括評価)の導入

平成22年

- 4月 病院敷地内全面禁煙の実施
- 6月 広報紙「おきたま病院」発行開始
- 11月 公立置賜総合病院・サテライト医療施設開院10周年記念式典

平成23年

- 1月 エイズ治療拠点病院指定
- 3月 東日本大震災の被災地へDMA T派遣
南陽市及び長井市の避難所に日本赤十字救護班を派遣、被災者を随時受け入れ



DMA T隊

- 4月 院内保育所「きらら保育園」開所



院内保育所 きらら保育園

- 5月 日本医療機能評価機構による病院機能評価ver6.0認定
形成外科を標榜
循環器科を循環器内科に改める

- 6月 置賜地域医療情報ネットワークシステム(OKI-net)の運用開始
- 12月 地域医療支援病院の承認

平成24年

- 4月 診療情報管理室の設置
消化器内科を標榜
- 5月 消化器外科を標榜

平成25年

- 4月 渋間久医療監(兼)院長就任
MRI装置を2台に増設
- 8月 オープンホスピタルの実施(高校生を対象とした病院見学会、体験会)以降、継続的に開催



平成26年

- 4月 呼吸器外科、救急科を標榜
- 11月 「おきたま病院 健康まつり」の開催以降、継続的に開催



病院まつりの一コマ

「地域医療支援病院」としての役割

地域医療支援病院とは、紹介患者に対する医療提供、医療機器の共同利用、地域の医療従事者に対する研修等を行い、かかりつけ医やその患者を支援する役割を担う病院です。

当院では、地域の医療機関との連携を推進するために紹介予約制をとっています。

初診の患者さんは、地域の医療機関(かかりつけ医)から紹介いただき、事前予約手続きによる受診をお勧めしています。かかりつけ医からの紹介状を持参されない場合は、選定療養費(医科5,000円)をご負担いただくことに加え、当日来院されてからの予約取得となるため、午後の診療となる場合や翌日以降の診療予約とさせていただく場合もあります。

患者さんの病状が安定した後は、かかりつけ医等にご紹介し、継続した医療を提供しております。



紹介患者中心の医療を提供している証

紹介率 ▶ (他医療機関から総合病院に紹介された方の割合) 74.6%

逆紹介率 ▶ (総合病院から他医療機関に紹介した方の割合) 84.6%



平成27年	
2月	病棟再編 疾患別・機能別センター化 (消化器病、呼吸器病、循環器病、顎顔面外傷)
12月	ドトールコーヒーショップ公立置賜総合病院店のオープン
平成28年	
3月	日本医療機能評価機構による 病院機能評価3rdG: Ver.1.1認定(更新)
5月	熊本地震の被災地に公立置賜総合病院救護班派遣
平成29年	
4月	置賜広域病院企業団発足 (地方公営企業法を全部適用) 中山順子企業長就任 林雅弘医療監(兼)院長就任
7月	病棟再編(病床数53床休床、8東病棟閉鎖) 7対1看護体制の導入
10月	置賜広域病院企業団長期基本戦略の策定
平成30年	
7月	病棟再編(一般病床26床を精神病床に転換、 一般470床、感染4床、精神46床)
9月	北海道胆振東部地震の被災地へDMA T派遣

平成31年	
4月	レジデントハウス(研修医用宿舎)供用開始
	
令和元年	
5月	ヤマザキショップ置賜総合病院店のオープン
6月	新公立置賜南陽病院が開院
7月	許可病床数を496床に変更 (一般446床、感染4床、精神46床)
10月	台風19号の被災地(宮城県丸森町及び角田市) へDMA T及び災害支援ナースを派遣
	
令和2年	医師 96名 研修医 17名 看護師 400名 総職員数 643名
2月	公立置賜長井病院改築整備事業 (厨房・エネルギー棟)の着工
6月	乳腺外科を標榜(24診療科となる)

地域連携に関するこれまでの取り組み

- ① 当院の医療連携登録医制度** ▶ 置賜地域の医療機関等との連携を図っています。現在は登録医療機関数 **149**
紹介入院患者共同診療 医療機器共同利用 研究及び研修部門利用
- ② OKI-net(置賜地域医療情報ネットワーク)** ▶ 患者さんの同意のもと、複数の医療施設間で医療情報を共有するシステムです。Oki-netは現在 **106** 施設で利用されています。
- ③ 市民公開講座開催** ▶ 平成20年度から「置賜の明日の医療を考える」という一貫したテーマのもと、市民公開講座を開催しています。ここ数年は「おきたま病院健康まつり」と同じ日に開催しています。

出前講座

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション療法士など各専門分野の担当者による出前講座を実施しています。

住民の皆さんの健康づくりや在宅医療の支援を目的に、ご希望される場所に出向いて研修会を開催しています。

医療、福祉関係機関の方や住民の皆さまは、お気軽にご相談ください。(新型コロナウイルス感染症の防止のため休止していましたが、10月から再開しています。)



現在は感染症拡大予防対策をしたうえで実施しています

泌尿器科

● 泌尿器科統括科長 阿部 明彦



当科は常勤3人、外来は他に非常勤として國井医師（斎藤医院：米沢市）と山形大学からの派遣医師が担当しています。置賜地区に数少ない泌尿器科専門医として患者様のお役に立つことを責務としております。泌尿器科は腎臓、尿管、膀胱、尿道、精巣などに関連する疾患を主に取り扱いますが、そのほか頻尿・尿失禁・夜間頻尿などの排尿機能疾患、女性に多い間質性膀胱炎、骨盤臓器脱（膣からの臓器の突出）などの疾患も当科で対応しております。「泌尿器科と関係ありそうかな？」という不安・心配・困りごとがありましたら、ご相談ください。当科では患者さん・ご家族と十分に話し合い、医療を提案・提供しております。患者さんの問題解決の時間を確保するため外来は予約制です。予約外の患者さんは緊急疾患を除き診察できません。予約方法はいくつかありますが、かかりつけ医から紹介していただくのが最も便利で間違いのない方法です。

排尿に関して不安や心配事はありませんでしょうか？ 癌は検診で見つかることが多いのですが、排尿関連疾患はご本人が感じる以外、早期発見の方法がありません。「年だからしょうがない…」「年だからこんなもんだろう」と考えてはいませんか？ 年齢は機能低下の原因の1つですが、適切な医療を受けないことで、「おしっこの管が不可欠な状態」や「透析治療が必要な状態」になることがあります。排尿障害は直接命に関わることがないので、後回しにされることがありますが、排尿機能は低下してしまうと元に戻せません。「こんなはずじゃなかったのに…」となる前にご相談ください。

外来診療体制

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
阿部 明彦 黒田 悠太	黒田 悠太 高井 諭	不定医	阿部 明彦 山形大学医師	國井(斎藤医院) 阿部 明彦

医長

くろた ゆうた
黒田 悠太



本年4月に当院に赴任しました。置賜地域での勤務は初めてとなります。それぞれの患者さんの病状や環境に則した医療を提供できるよう努めてまいります。

医師

たかい さとし
高井 諭



初期研修医時代からお世話になった地元でまた4月から勤務することになりました。地域医療に少しでも貢献できるように、当院がもっと身近に感じられるような診療を心がけています。宜しくお願いします。

主な手術件数

	2017	2018	2019
前立腺生検	125	89	86
膀胱腫瘍手術	70	51	65
尿路結石手術	38	57	52
排尿障害手術	31	13	29
前立腺癌手術	15	13	18

神経内科

● 栗村 正之

脳と脊髄と末梢神経から筋肉までの神経系の疾患を担当するのが神経内科（脳神経内科）です。他の医療機関からの紹介の患者さんが多く、一般的には馴染みがないかもしれませんが、神経系の症状は物忘れ、頭痛、手足の力の低下としびれ、足のムズムズ感、ふらつきなど身近なものです。パーキンソン病、レビー小体型認知症、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、脊髄小脳変性症（SCD、MSA）、多発性硬化症（MS）、重症筋無力症、多発性筋炎などは神経難病ですが、片頭痛、ムズムズ足症候群、パーキンソン症候群、脳梗塞などの脳卒中、髄膜炎、脳炎、ギラン・バレー症候群などの治療も重要です。特殊治療としてボツリヌス治療外来があり、片側顔面痙攣^{がんげんけいれん}、眼瞼痙攣^{げいせいしやくけい}、痙性斜頸などのボツリヌス注射治療を行なっています。

神経内科の特長は神経学的診察と神経生理検査と画像検査です。筋電計や磁気刺激装置を用いた神経生理検査は金曜日に行っています。MRI検査と核医学検査DATscan、MIBGシンチなどの画像検査はパーキンソン病や認知症の検査に重要です。

新患外来は火曜日水曜日午後と隔週木曜日午後または午前で紹介予約が必要です。神経内科は2人の常勤医（栗村、岡部）と、救急救命センター部長（鹿間）と山形大第3内科神経学分野教授（太田）で外来診療を行っています。



磁気刺激装置

外来診療体制

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
岡部 裕真 栗村 正之	栗村 正之	岡部 裕真 鹿間 幸弘	栗村 正之 太田 康之(山大)	—



診療部長(内科系五)
(兼)神経内科科長

くりむら まさゆき
栗村 正之

神経疾患の患者さんが地元で最善の治療を受けられるように努力したいと思います。



おかべ ゆうま
医師 **岡部 裕真**

置賜地域の医療に貢献できるよう尽力いたしますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

管理栄養士の1日

病院には皆さんが普段目にする医師、看護師の他にも様々な職種があります。今回は管理栄養士のとある1日を紹介します。



管理栄養士
深山 桜

おはようございます

朝のミーティング



1日のスケジュールの確認を行います。



整形外科総回診



医師、看護師、薬剤師、理学療法士など多職種で、患者さんの状態をみながら食事の量や食形態の調整を行います。



患者さんに食事が提供される前に、医師と管理栄養士が検食を行います。味付け、分量、盛り付け、温度、食器の使い方等を評価し、検食簿に記入します。

この日のメニューは、ごはん、カレイのマリネ、大根ネギ味噌かけ、小松菜の生姜ひたし、ヨーグルトでした!ごちそうさま!



検食

集団栄養食事指導



糖尿病教室を毎週水曜日に開催し、糖尿病の食事についてお話をしています。



個人栄養食事指導



患者さんの病気にあった食事療法のポイントについてお話しします。退院後の食生活に合わせた食べやすいものや作りやすい料理等を一緒に考えます。

外来でも栄養指導を行っておりますのでお気軽にご相談ください!



栄養管理計画書作成



身体測定(上腕周囲長・皮下脂肪厚)を行い、栄養管理計画書を作成します。



褥瘡委員会



多職種で、褥瘡(床ずれ)のある患者さんの報告や知識向上のため勉強会をします。褥瘡予防には栄養を十分にとることも必要です。



おつかれさまでした!

